

## 令和 5 年度 穎明館 中学校 入学式 式辞

今年の桜は開花が早く、一気に満開の見ごろを迎えました。穎明館の桜も少々、気が早かったようですが、全国から届けられる桜前線のたよりは、時まさに春の訪れを告げています。

本日、学園本部から理事長の堀越正道先生、副理事長の堀越由美子先生のご臨席を賜り、令和 5 年度 穎明館 中学校 入学式を挙行できます。私は本校校長の橋本好広です。よろしくお願い致します。

保護者の皆様、お子様のご入学、おめでとうございます。心よりお慶び、お祝い申し上げます。

穎明館では、コロナ禍にあっても、感染・安全対策と希望ある教育活動の両立にしっかりと取り組んでまいりました。これから中学高校の 6 年間、穎明館教育への変わらぬご理解、ご協力をお願い申し上げます。

ただいま入学を許可しました 190 名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんはコロナ禍で大変な状況の中、中学入試を突破し、晴れて本校の生徒となりました。歓迎の気持ちでいっぱいです。まずはご家族をはじめ、今までお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れないでください。

さて、新入生の皆さん、今日は最初に穎明館の桜の話をしました。穎明館の桜は 1985 年、昭和 60 年にこの学校ができた際に、兄弟校である堀越高等学校の卒業生が 60 本の桜の苗木を寄贈してくれたことが始まりです。新しい兄弟校のためにと送られた苗木は、月日を経て大きくなり、毎年、立派な花を付けるようになりました。その兄弟校の堀越高等学校は今年、創立 100 周年の記念すべき年を迎えます。穎明館は、学校法人堀越学園創立 60 周年の際に、当時の理事長・校長であった堀越克明先生が、学校の開校を決意されたのが始まりです。物事には始まりがありますが、何事も最初が肝心です。今日は皆さんに、最初を意識して、穎明館の創立者と学校の成り立ちについて少々、お話します。

穎明館の創立者は堀越克明先生。初代校長として13年間校長職を務め、2011年、平成23年に92歳でお亡くなりになるまで、学園長・校主として堀越学園・穎明館の発展のために力を尽くされました。その間、中央教育審議会などの委員、そして日本私立中学高等学校連合会理事長及び会長を務められた、日本の私学界、教育界のリーダーとして活躍された先生です。

その克明先生の祖父、堀越修一郎先生は1877年、明治10年に『穎才新誌』という雑誌を発行されました。『穎才新誌』は新しい時代の幕開けを感じさせる投稿形式の週刊雑誌で、当時の活力ある若者たちに大変歓迎されたそうです。執筆者には、夏目漱石、田山花袋、土井晩翠といった有名な方々の名前も見られます。この修一郎先生の影響を受け継いで、国際社会で羽ばたけるグローバルな視野を持った真のリーダーを育てたいという熱い志で穎明館は誕生しました。

私立学校で一番、大切にしているもの、それは建学の精神とあって、学校を創立した先生が、どういう気持ちで学校を創ったかというその思い、教育に対する考え方です。穎明館の建学の精神は「新しい時代のリーダーを育てる」、すなわちグローバルな視野を持って時代や社会に尽くす人、貢献する人を育てるというものです。

新入生の皆さんはEMKブリッジを渡って、正面玄関に掲げられている銘板に気づきましたか。銘板には「校訓」、「モットー」、「校歌」が書かれてあります。ぜひ後ほど読んでみてください。

穎明館の建学の精神に基づく「校訓」、「モットー」、「校歌」は、いずれも創立者堀越克明先生が考えました。新入生の皆さんには、キャリア教育という授業で、改めて穎明館や創立者について学ぶ機会があります。皆さん一人ひとり、穎明館で学ぶ意味を考え、しっかりと勉強していきましょう。

ところで、新入生の皆さんは「天からの手紙」という話を聞いたことがありますか。

「人間は生まれた時に天から一通の手紙を受け取っている。その手紙には、その人の命の使い方が書いてある。一所懸命に勉強したり、働いたりしているうちにその手紙を開けることができるようになる。」

私はこの話を聞いた時、山本有三作『路傍の石』の中で、次野先生が愛川吾一少年に語る言葉を思い出しました。今日からの穎明館での学校生活、そしてこれからの人生に向けて、生まれたことの使命を自覚して歩み出すことを願いつつ、その言葉を紹介します。

「人生は死ぬことじゃない。生きることだ。これからのものは、何よりも生きなくてはいけない。自分自身を生かさなくってはいけない。たった一度しかない一生を、ほんとうに生かさなかったら、人間、生まれてきたかいがないじゃないか。」

「わかったか、愛川。先生は、お前に見どころがあると思えばこそ、こんなに言っているのだ。おまえは自分の名にかけて、是非とも自分を生かさなくてはならない。おまえってものは、世界じゅうにひとりしかないんだからな。——いいか、この言葉を忘れるんじゃないぞ。」

今日は入学式にあたり、「穎明館の建学の精神について」と「天からの手紙、生まれてきたことの使命」について、お話ししました。私は今日から、190名の皆さんが加わって穎明館の歴史をともに創っていくことと、190名の皆さんがそれぞれ「天からの手紙」を読み、自分の使命を自覚して未来を創造していくことを楽しみにしています。

改めて今日のよき日の出会いに感謝し、喜びあいたいと思います。

穎明館 42 期生の皆さん、入学おめでとう。

以上、令和 5 年度穎明館中学校入学式式辞といたします。